



新年あけましておめでとうございます。

入居企業の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、旧年中はSICの施設運営に深いご理解とご協力を賜り心より御礼を申し上げます。

SICでは年末年始の休日を12月29日から1月3日までの6日間と定めていますが、今回は土日の休日と合わせて連続9日間となりました。こうしたカレンダーの巡り合わせは何年かに一度の貴重なタイミングです。連続して9日間の休みとなれば、地方出身の方はゆっくりと里帰りが出来ますし、海外でお正月を迎えたいという方にも絶好の機会になったのではないのでしょうか。ちなみに、私が金融機関に就職した昭和58年当時は、大晦日の夜遅くまで仕事をして最終電車で帰宅、そのまま昼頃まで寝てしまうこともしばしば。正月休みは三が日だけだったので、あつという間に仕事始めといった感じでした。今、その頃のことを振り返ると「休みは少なかったなあと思う反面、世の中や人々が活気に溢れていて楽しかったなあ」と思えた時代でもありました。

さて、今年はどんな年になるのでしょうか。昨年11月に投開票された米大統領選において、トランプ氏が勝利しました。トランプ氏は選挙公約として「米国第一」の追加関税や移民規制の強化、減税などを経済政策の柱に掲げています。第2次トランプ政権で保護貿易政策を先鋭化させた場合、自動車産業を中心に日本の輸出産業への影響が懸

念されます。また、中国では不動産市況の停滞が長期化し、雇用環境の悪化も重なって内需の不振が続いています。米国による追加関税が実施されれば、日本を含めた周辺国との貿易摩擦が一層深刻化する可能性もあります。そうした中、日本経済は緩やかに持ち直し、先行きは内需を中心に底堅い成長が続くと予測するシンクタンクもあります。特に個人消費は、実質賃金の回復や家計の節約志向緩和から持ち直し、企業の設備投資は、デジタル化・脱炭素化等に向けた取り組みや深刻化する人手不足対応などを背景に拡大傾向が続くとみられています。石破新政権は、成長分野への投資促進、構造的賃上げに向けた環境整備、地方創生の推進など生産性向上につながる政策を重視する方針を打ち出していますが、日本経済の好循環を促す政策運営となることを強く期待します。

結びにあたり、私たちSICは、これからも総合的なインキュベーション活動を通じて地域経済の発展に貢献できるようスタッフ一同力を合わせて取り組んでまいります。そして、新しい年が入居企業の皆様にとりまして、さらなる発展・成長の年になりますことを心より祈念申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。

令和七年一月

株式会社さがみはら産業創造センター

代表取締役

橋元雅敏



入居企業トピックス

1月の新聞掲載記事紹介(12月24日時点)

新聞紙上に掲載された企業をご紹介します。

ご紹介する記事はSICに掲載していますので、ご覧ください。

また紙面に掲載された場合、スタッフに教えていただけると幸いです。

- 12月4日 カネパッケージ株式会社 日刊工業新聞
—比セブに医療施設寄贈—
- 12月5日 株式会社PXP 日刊工業新聞
—PXPと資本業務提携—
- 12月12日 高瀬総合法律事務所 かながわ経済新聞
—海外企業との取引契約書チェックにおける弁護士
の視点—
- 12月12日 株式会社アド・ソーア かながわ経済新聞
—ペン型電子聴診器を開発「世界初」—

SIC空室情報 (令和7年1月6日 現在) ※お気軽に稲垣・大谷までお問合せください

部屋	空室数	賃料/月額 (共益費・消費税込)
SIC-1 Startup Lab. ○スモールオフィスB(13.7㎡)	7 ^{※1}	70,620円

※1 2月以降入居可能 2部屋
最新の情報はHPをご確認ください。

昭和と聞いて思い出すコト・モノ

昭和のアイドルといえば、ピンクレディ!お小遣いをためては、レコードを買いに走っていました。今はサブスクでいろいろ聞くことができる時代ですが、これ!というものに出会うとついCDを買ってしまいます。くせは抜けないものですね。(中野)



自分自身の昭和となると、実家の周りに身近にいたメダカやドジョウ、イモリ、オタマジャクシ、蛭などを思い出します。生態系の回復に関するニュースを耳にすると心躍る感じがして、昭和にタイムスリップしてしまうような場所が相模原にも増えると感じています。(片山)



小中高は、田舎暮らしの健康的なスポーツ少年でした。昭和も残りわずかとなった時の大学生活では、これまでに見たことも、聞いたこともない経験をたくさんすることができました。そのおかげでしょうか、内気な性格に変化のきざしが…。(上野)



シティポップ。リバイバルブームをきっかけに聞くようになりました。レコードをディグって聞くのが通なんだろうが、ミューハー現代人の私は、スマホでサブスクでワイヤレスイヤホンで聞いています。(村山)



生まれてから社会人になった頃までが昭和でしたが、中高生の頃はちょうどレコードからCDに変わって行った時代でした。初めてお小遣いで買った「イモ欽トリオ」と「忌野清志郎」のレコードは未だ捨てずに持っています。(岳田)



昭和を代表する映画監督「小津安二郎」の作品をよく観ていた時期がありました。「東京物語」や「東京暮色」など、家族を描いた作品に少し胸が苦しくなりながらも、夢中になって観ていたことを思い出します。(樽川)



昭和で思い出すものは黒電話☎。家族に聞かれないように階段の上まで電話を引っ張って長電話し、よく月末に大目玉を食らっていました。電話番号はクラス全員分程度は普通に覚えてましたし、昭和から平成・令和。通信手段の変化がもっとも著しいと感じます。(金澤(知))



昭和と聞いて思い出すのは、ファミリーコンピュータです。スーパーマリオブラザーズはカセットフープしながらよく遊びました。当時我が家にあったダイヤル式のブラウン管テレビにファミコンを接続できた時の感動は今でも色褪せません。(奥村)



1980年代以降、洋楽ロックがハードロックからヘヴィメタへ、更にオルタナティブやメロコアへと流行が変わっていったかと思えます。その影響で、私自身も1990年代に中学から高校にかけて校内バンドを組んでメロコアに夢中になりました。(五島)



カセットテープでしょうか。母運転の車内では鈴木雅之、ユーミン、杏里などがよく流れていたのを覚えています。その影響で私も大好き。今は私もドライブ中に一人カラオケ大会です。「今日は渋谷で5時〜♪」(荒巻)



平成育ちではありますが、子供のころ家には祖父母がいて、ブラウン管テレビ・ラジカセ・黒電話・クーラーといった今では昭和レトロと言われる品々がありました。こう考えると自分は昭和の中で育ったといえるかもしれませんね。(大谷)



昭和と聞いて、黒電話やラジカセが思い浮かびました。今はスマートフォンで何でもできる便利な時代ですが、ダイヤルを回したり、自分でカセットテープに録音したり、アナログなデバイスも手を動かしている実感があっていいと思います。(片桐)



暴れん坊將軍を子守唄に育ったせいか、昭和といえば時代劇を想起します。最近マツケンサンバを見た姪(2歳)が「シャンバ!バ!」と興奮するのを見て、令和生まれにも愛される時代劇の凄さを感じました。(佐藤)



中学生の息子が修学旅行先のオーストラリアにけん玉とルービックキューブを持っていったら、人気者になったそうです。ちなみにルービックキューブの最高タイムは1.9秒!とのこと。皆さまも腕を磨いて海外に持っていかれてはいかがでしょうか。(金澤(信))



雪の日も一緒だった通学用黄緑色ロードマン、砂利の道志坂道で唸り声を上げ西湖キャンプへ行行った白パッソル、FRの赤いスターレット、若かりし10代の足であった昭和の道具です。空を飛ぶ車のように、技術で生活を豊かにする取組を応援したいと思います。(安藤)



何よりも歌謡曲です。ポイトレレッスンの延長で、カラオケによく行きます。令和最新曲に限らず、1980年代のアイドル、演歌、ニューミュージック、ロックなども歌いますが、昭和歌謡は、幅広い世代でいつも盛り上ります。(須藤)



建て替え前の実家にあった縁側が大好きでした。夏は縁側で花火、冬は雪の降る空を眺めたり四季を感じながら育ちました。今は山の中で季節を感じていますが、いつまでも自然が多く残って欲しいと思います。(中村)



私の昭和といえば特撮。ウルトラセブンのダン隊員の腕のビデオシーバーや超兵器ウルトラホークにワクワクしたものです。「人間が想像できることは、人間が必ず実現できる」、昭和の小学生が夢見た高度な技術を持つ平和な未来がまもなくやって来ると信じています。(稲垣)



編集後記

2025年は昭和が始まり100年を迎える年になります。今回は昭和生まれのスタッフが、「昭和と聞いて思い出すコト・モノ」をテーマにひと言と、昭和風に加工した写真を掲載しています。皆さんは昭和と聞いて何を思い出しますか?技術や文化が蘇るように温故知新は大切にしたいものです。本年もよろしくお願いたします。(佐藤)